

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年1月19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871200267		
法人名	有限会社 グループホーム来夢		
事業所名	グループホーム 来夢おおた	ユニット名	1番館
所在地	〒313-0046 茨城県常陸太田市上河合町1527-1		
自己評価作成日	平成27年6月4日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871200267-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年7月16日	評価機関 決 済 日	平成28年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>24時間ご家族との面会を受け入れておりいつでも好きな時にご家族様との時間が持てるように支援しています。また、入浴時、爪の清潔保持、足浴を行い浮腫みの改善リラックス効果を狙いとしています。生活保護利用の方や成年後見制度利用の方も入居されており積極的に受け入れを行っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の周辺には畑があり、利用者は季節毎の野菜の成長や収穫を楽しみにするとともに、収穫した野菜を調理し、おいしく食べている。</p> <p>建物は檜材を使用したつくりになっており、廊下の手摺に溝をつけたり、歩行中に座って休めるようベンチを設置したりと、安心して生活ができるよう工夫をしている。</p> <p>浴室は一般の浴室のほかに檜風呂があり、利用者は自由に選んで他の利用者と一緒に入浴を楽しむこともあるほか、足湯は散歩後や気分転換に使用している。</p> <p>隣接するコンビニエンスストアとは、災害時には食料の供給を優先してもらえることになっているなど、連携体制がとれている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と一緒に暮らしているよう、独自の理念がある。職員は理念カードを持参している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成し、玄関及び事務室に掲示するとともに、職員は理念を携帯して共有し、実践につなげている。新人職員は理念が書かれたカードを見ながら、覚えらるるまで毎日朝礼時に読み上げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常会に入会しており入居者の方と一緒に回覧板をまわしに行ったり地域のイベントに参加している。また、花や野菜を頂くこともある。	事業所は自治会に加入しており、利用者は職員と一緒に近隣に回覧板を回している。利用者や職員は地域に昔から続く「鳥追い祭り」や近くの小学校から運動会に招待されて参加しているほか、七夕に地域住民から笹を貰って七夕飾りを楽しんでいる。事業所が借りている隣接の畑に、小学生が花の苗を植えに来訪したり、畑の地主や近隣住民から野菜を頂くなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回の避難訓練に近所の方へ声を掛け参加して頂いている。また、地域の方に声をかけ認知症サポーターの研修参加を呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの方や地域の方に参加していただき近況報告や研修会の案内をしている。また、地域の方からのアドバイスや地域の情報を頂いている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催することとしており、市職員や地域包括支援センター職員の参加を得ている。会議では、食費の値下げやサービスの取り組みについて報告するとともに、出席委員より意見や要望を伺っている。会議で出た意見や要望を職員に伝えるとともに、サービスの向上に活かせるよう検討している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	勉強会や会合に積極的に参加し他グループホームの運営推進会議に出席し他グループホームやケアマネージャーさんと情報交換をしている。	事業所で開催する運営推進会議に、市の職員や地域包括支援センター職員が出席している。 市の窓口パンフレットを置かせてもらったり、利用者の要介護更新申請などで連携を図るとともに、施設長が市主催のセミナーや研修の講師を行なっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアの基本として、身体拘束は行っておりません。	身体拘束マニュアルを整備して内部研修を年に1回実施し、出席できなかった職員には、研修記録を作成して回覧することにより周知している。 日中玄関は施錠せず、職員は見守りをしたり、玄関のチャイムで利用者の行動を確認し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての勉強会を自社で行い学んだことを他スタッフにも伝え虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している入居者様がいる為、実践を通し学び担当者との連携を密にし支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、読み合わせを行い同意のサインを頂いている。介護報酬の改定等が行われた際には家族に説明し同意書を頂いている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、外部の方より意見を頂き面会時や病院受診の連絡時などに家族に意見を頂きサービスの向上に繋げている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居される前に、入居者様の身体状況等をスタッフに伝え勉強会を行ったりミーティングを行い意見交換の場を設けている。また、週1回の代表者会議を行っている。	施設長は週1回のユニットリーダー会議や、年2回の個人面談で職員から意見等を聴き、働きやすい環境づくりとなるよう配慮している。 管理者は月に1回行うユニット会議で職員から意見等を聴き、「行事の際に寿司を出してはどうか」など、利用者が喜びそうなメニューの提案を受けて実行するなど、出た意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて支援したり、個々のスタッフに合わせて勤務体制を組んでいる。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体ミーティングを行い事例を通して社内勉強会を行っている。また、個々にあった研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のケアマネ会に出席して、学んだり交流する機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ず個々にあった面談を行い本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行っている。何に困っているか、家族からの要望、不安を受け止め信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや相談員の方との情報交換、病院との連携をとり支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	柏餅作りや昔からある料理、歌などを教えて頂き、人生の先輩であることを職員が共有している。また、入居者様から教えて頂ける場面を多くもてるよう声掛けなどに工夫している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会、クリスマス会等の行事に家族の方に声を掛け参加を呼びかけている。また、本人の日常の様子を面会時や電話等で伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や馴染みのある方が来られたり継続的な交流が出来るよう働きかけている。	正月やお盆に親戚が来訪したり、家族等の協力を得て自宅に外出するほか、職員と一緒に馴染みの店に買い物に行くなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係をスタッフは把握しており一人ひとりが孤立しないよう場面の設定を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーを入院先にお渡しし情報の交流を計っている。 入院時のお見舞いや亡くなった方の告別式参列、新盆参りなど退去後の繋がりを大切にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人からの希望や意向を聞き本人の希望に沿ってケアを行っている。また、日々のかかわりの中で声を掛け把握の努めている。	職員は利用者との会話が難しい場合は、時間を置いて話しかけたり、家族等と電話で話し合ってもらい、後日家族等から報告を受けて職員間で把握している。 新しく把握した思いや意向は、申し送りノートに記載して職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、生活歴や今までの暮らし方などの聞き取りを行っている。また、馴染みのものを持参していただき生活環境の設定に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各スタッフが個々の心身状況の把握に努め、個々にあった有する力が発揮できるようケアに努めている。利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングを行い本人、家族の希望に沿って介護計画を作成している。また、必要に応じてケアプランの見直しを行っている、	介護計画は利用者及び家族等の意向を踏まえ、利用者の日常生活から見出した課題を把握し、計画作成担当者が職員と意見を交えながら作成している。 モニタリングを3ヶ月毎に行い、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月とし、心身の状態に変化があった場合には、随時見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の行動や状態、食事、水分、排泄などを記録しスタッフ間で情報を共有しケアを行っている。また必要に応じてセンター方式の利用をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況にあった外出や外泊に対応している。また、家族の状況に応じて通院介助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方と交流したり警察や民生員の方と意見交換、近所の方の面会等本人が楽しい生活が出来るよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医を希望を大切にしている。事業所の協力医との連携を大切に家族の受診対応が難しい時にはスタッフが対応している。	かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本としているが、家族等が付き添えない場合や車いすの利用者の場合は職員が付き添い、受診結果は「個人記録簿」に記載して全職員で把握するとともに、家族等には電話で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状況の変化を随時看護師に伝え指示や指導を受けている。また、協力医の先生からの指示や助言を頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、看護・介護サマリーを活用し情報の共有をしている。家族、医師と話し合う機会を持ち早期退院に心がけている。	/		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について本人や家族の意向を踏まえ事業所で出来る事を説明している。また、家族の方が安心、納得して終末期を迎えられるよう医師、看護師、職員と十分に話し合い確認しながら取り組んでいる。	「重度化した場合における看取り指針」を作成し、内部研修を行なうとともに、家族等へは契約時に説明して書面にて同意を得ている。 医師に看取りを宣告された場合には、家族等と話し合っって重度化の対応マニュアルに基づき、介護計画書を看取りの計画書に切り替えるなど、変化に応じて看取り計画を見直している。 職員は利用者が家族等と最後まで看取りの部屋で過ごせるように配慮している。	/	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を行っている。また、入居者様1人ひとりの状態から予測される危険を検討し食事や服薬の方法に工夫している。	/		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を通して緊急時の対応を職員全員が見につけ地域の方に声をかけ参加して頂いている。また、食料品・飲料水の備蓄を行っている。	夜間想定避難訓練のほか、消防署および消防設備業者立ち会いのもと、利用者や地域住民、民生委員、隣接のガソリンスタンドの社員、職員が参加した避難訓練を実施し、終了後の反省会で課題について話し合い、訓練記録を作成している。 事業所は隣接のコンビニエンスストアと、災害時における食料品等の供給に関して協力関係を築いている。 災害に備え、飲料水やカップラーメン、かゆ、缶詰、スープ、暖房器を備蓄しているが、品名や数量、消費期限等を記載した備蓄品一覧表を作成し、管理するまでには至っていない。	品名や数量、消費期限等を記載した備蓄品一覧表を作成し、定期的に点検して職員の誰もがわかるように保管することを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けを行い、尊厳を大切にしている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、名前では呼んでいる。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。 個人情報の取り扱いや、プライバシーに関する内部研修を行なうまでに至っていない。	個人情報の取り扱いや、プライバシーに関する内部研修を早急に開催することが望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好みに合わせ食事や飲み物を提供できるよう声掛けを行っている。また、洋服も自分の好きなものを選んで頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿ってスタッフと買い物、散歩に出掛けたりしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望に応じてヘアカットに出掛けたり洋服店へ一緒に出掛け鏡の前で服をあわせ好きな洋服を購入したりしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に外出し好みのものを購入したりしている。また、庭の畑で野菜を作り旬の野菜などは作り方を聞いたりして食事の準備を一緒に行って頂いている。	利用者の好みや嫌いなものを把握して職員が献立を作成し、利用者に声をかけながら食事介助をしている。正月や雛祭り、節句、七夕、敬老会などの行事に応じて、利用者が喜ぶようなメニューを提供しているほか、クリスマスには、家族等と一緒にクリスマスメニューを楽しんでもらっている。利用者はできる範囲で、テーブル拭きや食後の後片付けなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握し、1日に必要な水分をバランスよく提供できるよう支援している。水分摂取が困難な方には寒天ゼリーを提供し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアを行い、毎食後のうがいの声掛けを行い個々にあったケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導をしトイレにて排尿が出来るよう支援している。	職員は排泄チェック表をもとに、時間を見計らって声かけや誘導を行っており、トイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の取り入れや腹部マッサージ、メンタシップを行っている。また、寒天や牛乳を利用したおやつを提供をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々のきぼうにあわせて、入浴・足浴・シャワー浴などを行っている。	入浴は週2回から3回を基本とし、看護師による体調チェック後に入浴するとともに、入浴を拒む場合には無理強いしないようにしている。 冬季の入浴の際は脱衣室を床暖房で温めたり、浴室の床を湯で温めてから入浴出来るように配慮している。 菖蒲湯や柚子湯、リンゴ湯など、季節に応じた入浴支援のほか、散歩の後などは足湯を行なっている。 就寝前に入浴を希望した場合は、職員に余裕がある場合に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ナイトミールに、ホットミルクや紅茶などを提供し安眠に繋げている。また、小さめの布団をホールに準備しお昼寝に利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを記録書にファイルし全職員が把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡ししきちんと服薬出来ているか確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする洗濯たたみ、お掃除などを行って頂いている。また、個々に合わせたしごとを頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事計画をたて、お花見や林檎狩り等に外出している。家族からの外出希望があった場合はその都度外出支援している	職員が食材や日用品の買い物の際に、利用者も一緒に出かけたり、静神社の花見や竜神峡の鯉のぼり見学のほか、大子のリンゴ狩りに家族等も一緒に参加している。事業所は家族等の協力を得ながら、利用者が希望する外食や外泊の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の残存機能を活かし金銭管理能力の見守り、支援を行っている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった場合にはどこに電話したいのか訴えを聞きその都度対応している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり心地よい音楽を取り入れホールの一區間に自宅で過ごしていたような空間づくりを行っている。	事業所は檜材をふんだんに使用したつくりとなっているため、臭いは全く感じられず、利用者が快適に暮らせる環境となっている。 トイレは扉を3枚戸にし、車いすでも楽に出入りができるように工夫するとともに、背もたれ付きの便座を設置して利用者が安心して使用できるように配慮している。 隣りの浴室とは看板を赤と青で色分けし、間違わないよう工夫をしている。 廊下の壁面にあるつくり付けのベンチは、利用者が思い思いに過ごせる空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、デッキ、ホールにベンチやソファを設置し居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた馴染みのものを持参して頂いている。			利用者が部屋を間違わないように、居室の扉に貼ってある和紙の色を一人ひとり変えたり、家族等から許可を得て、居室の入り口に利用者の名前を掲示している。 利用者は自宅で使い慣れたテレビや寝具類、衣装箱のほか、家族等の写真などを持ち込んで、居心地良く暮らせるように工夫をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており個々に合わせ手すりのある椅子を使用している。居室が分からなくなってしまう方の居室には目印になるものを付けたりしている。			

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 来夢おおた

作成日 平成28年3月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	品名や数量、消費期限などを記載した備蓄品一覧表を作成し、定期的に点検して職員の誰もがわかるように保管することを期待する。	品名、数量、消費期限などを記載した備蓄品一覧表を作成しスタッフ全員が分かる所に保管する。	品名、数量、消費期限等を記載した備蓄品一覧表を作成し年2回の消防訓練で点検しスタッフ全員がわかる所に保管する。	3ヶ月
2	36	個人情報の取り扱いや、プライバシーに関する内部研修を早急に開催することが望まれる。	個人情報の取り扱い、プライバシーに関する内部研修会を行う。	個人情報の取り扱い、プライバシーに関する内部研修を行いスタッフに伝える。	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。